

平成24年度 【 学園研究費助成金<A> 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ トチクボ ユウジ
氏名 栃窪 優二

研究期間 平成24年度

研究課題名 東日本大震災を語り継ぐメディア教育の研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	栃窪 優二	文化情報学部	教授
研究分担者	脇田 泰子	文化情報学部	准教授
研究分担者	松山智恵子	文化情報学部	講師
研究分担者	渡邊 康	教育学部	准教授
研究分担者	柴田亜矢子	国際コミュニケーション学部	講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

2011年3月11日に発生した東日本大震災、これまで日本では経験したことがない死者・不明者が1万9千人という大きな被害が出た。特に沿岸部を中心に津波による被害が深刻で、いま被災地の復興や今後の防災対策が問われている。そこで本研究は、被災地の復興に向けた現状や被災地のメッセージを映像ドキュメントにまとめ、その映像記録をインターネットなどで広く発信して、復興支援や防災意識の向上を図ろうという狙いである。またこうした取り組みを通して、大学・学生が社会貢献すると共に、ジャーナリズム、映像制作、Web情報発信などの領域で、学生に対して質の高いメディア教育を行う教育モデルの構築を探る目的の実践的な研究である。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- ①映像ドキュメントの制作を前提に、宮城県石巻市と女川町の取材・撮影を実施した。
- ②その取材・撮影をもとにゼミ学生が参加して映像ドキュメントを制作した。この作品にはオリジナル音楽を使用し、広く情報発信するために英語版コンテンツも制作した。
- ③制作した映像ドキュメントを大学・学部サイトで動画公開して、アクセス解析をした。
- ④制作した映像ドキュメントを大学の授業や高校の講座等で活用し、アンケート調査を実施。
- ⑤プロジェクトに参加した学生と被災地の連携先、石巻日日新聞社と東北福祉大学を対象にアンケート調査をして、プロジェクトの分析・評価を試みた。
- ⑥上記の内容を総合的に考察して、今後の課題や方向性を探った。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

2012年度に現地取材を計4回実施して、下記の10作品を制作し、大学サイトで公開した。

- ①英語版・6枚の壁新聞から1年 (5分30秒・5月9日公開)
- ②津波被害・記者として～九死一生の体験を語る (6分02秒・5月10日公開)
- ③復興への道のり～記者が語る被災地・石巻 (5分45秒・5月10日公開)
- ④地域の絆を再生へ～学生ボランティアの記録 (5分45秒・5月10日公開)
- ⑤ドキュメンタリー「心の復興・石巻の願い」 (29分0秒・5月31日公開)
- ⑥地域の絆を再生へ～女川・復興農園の記録 (4分30秒・8月6日公開)
- ⑦その時、リーダーは～新聞・経営者の決断 (4分52秒・8月6日公開)
- ⑧絆の駅・石巻ニューゼ～地域の情報を発信へ (5分0秒・10月22日公開)
- ⑨女川・復興農園の秋～仮設住民の思い・前編 (5分32秒・10月29日公開)
- ⑩女川・復興農園の秋～仮設住民の思い・後編 (5分51秒・10月29日公開)

このうち①英語版は米・ワシントンのニュース博物館「Newseum」サイトで公開されたほか、⑤ドキュメンタリーは「地方の時代・映像祭2012」で入賞した。

大学サイト・アクセス解析の結果、動画ページビュー数の総計(2月7日現在)は3907でリンク元はYahoo、Sugiyama-u.ac.jp、Google、国会図書館サイトの順で多かった。

作品は大学・授業(「文化情報論」、「ジャーナリズム論」、「取材活動論」)や梶高・土曜講座などで映像教材として活用し、アンケート調査の結果、一定の効果があつたことが確認できた。

プロデューサー(梶窪)の視点では、限られた条件での取材・制作だったが、全作品が映像ドキュメントとして一定のクオリティとメッセージ性を維持できたと受け止めている。

プロジェクトを分析・評価するためアンケート調査を実施した。企画意図は参加学生(14人)と連携先(石巻日日新聞・東北福祉大学)の双方から「良い」という回答を得た。参加学生に作品の制作過程やプロジェクト評価を求めたところ、全ての質問項目で「良い・まあ良い」、「満足・まあ満足」という回答が寄せられた。連携先にプロジェクトの進め方や作品の評価を求めたところ6項目が「良い」、1項目が「まあ良い」で、本学と連携したプロジェクトを高く評価していて、来年度のプロジェクト継続を希望していることが確認できた。震災3年目は何を伝えるのか、どのような枠組みで情報発信するのか、課題は多いが、被災地との連携・協力を大切にしながら、来年度も「震災を語り継ぐ」プロジェクトを継続する予定である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①東日本大震災	②石巻	③映像	④ドキュメンタリー
⑤記者	⑥メディア教育	⑦教材ビデオ	⑧防災

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- ・映像ドキュメント(上記①～⑩)インターネット動画公開(2012年5月～)
 椋山女学園大学サイト http://www.ci.sugiyama-u.ac.jp/media_a/cat-119/index.html
- ・国立国会図書館 Current Awareness Portal 「椋山女学園大学 震災ドキュメンタリー公開」
<http://current.ndl.go.jp/node/20805>、2012年5月9日、
- ・論文「東日本大震災・映像ドキュメントの制作と発信」、梶窪優二、他4名
 椋山女学園大学研究論集 第44号(社会科学篇)2013年3月(発行予定)